

## I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

藤原北家が台頭したきっかけは、嵯峨天皇の下、藤原冬嗣が蔵人頭になったことであろう。冬嗣の子、(1) (2) は、842年の承和の変で (3) (4) や橘逸勢らを失脚させ、858年に幼少で即位した清和天皇を輔佐するため、臣下で初の摂政になった。さらに866年の応天門の変では (5) (6) らを没落に追い込んで、有力他氏を排斥していく。その後 (7) (8) は、光孝天皇を擁立して884年に初の関白になり、さらに (9) (10) 天皇の即位に際し、「阿衡の紛議」で関白の政治的地位を確立させる。(7) (8) の死後、(9) (10) 天皇に登用された菅原道真は、(11) (12) 天皇のとき、901年に (13) (14) の讒言で左遷される。(11) (12) 天皇と (15) (16) 天皇は、摂政・関白をおかずに親政をおこなったが、朱雀天皇の下では (17) (18) が摂政・関白になっている。(15) (16) 天皇の死後、969年の安和の変では (19) (20) が失脚し、藤原北家の地位は不動となった。

藤原氏の摂関政治はやがて藤原道長・頼通父子の時代に最盛期を迎える。藤原道長は4人の娘を入内させ、後一条・(21) (22) ・後冷泉の3天皇はその孫にあたる。藤原頼通はついに天皇の外祖父になることはできずに引退し、藤原氏を生母としない (23) (24) 天皇の即位をもって、藤原摂関政治の全盛期は終わりを迎える。藤原氏による摂政・関白への就任はその後も続いたが、政治の主導権は院政に移行する。院政は1086年に白河院から始まり、その後、鳥羽院、後白河院へと続く。

朱雀天皇の時代、桓武天皇の子孫である平将門や、藤原北家の出である (25) (26) が承平・天慶の乱を起こした。また1019年には刀伊の入寇があり、(27) (28) らがこれを平定した。承平・天慶の乱に関連して登場するのが、後の武家社会の中心的存在となる清和源氏の祖、(29) (30) である。その子、(31) (32) は安和の変にかかわり、藤原摂関家との関係を深くした。1028年に起きた平忠常の乱では、(33) (34) がこれを平定し、源氏の東国進出の足がかりを築いた。その後奥羽地方を舞台に、源頼義・義家父子は前九年合戦で出羽の清原武則とともに陸奥の安倍氏を討ち、さらに、源義家は清原氏の内紛に介入する形で後三年合戦を (35) (36) とともに戦って、奥羽地方は (35) (36) の支配するところとなる。源義家にとっては思惑違いの結果に終わったが、それでも源氏の名声を世に広めることにはなって、後世に大きな影響を及ぼす。しかし源義家の後は、その子、(37) (38) の乱、および一族の内紛もあって源氏の勢力は停滞を余儀なくされる。

一方の平氏は、平将門を討った平貞盛の子が伊勢に土着し、その子孫は伊勢平氏と呼ばれる。平正盛は、(37) (38) の乱を平定したことで白河院の信任を得て、その子、平忠盛は白河院および鳥羽院から引き立てられ殿上人にまでのぼる。1156年、鳥羽院の死後、崇徳上皇と後白河天皇の対立は、藤原摂関家や平氏、源氏をそれぞれ二分した保元の乱を引き起こす。崇徳側は藤原頼長と平忠正、源為義が、後白河側は藤原忠通と平清盛、(39) (40) が味方して戦ったが、後白河側の勝利に終わる。続く平治の乱では平清盛が (39) (40) を討ち、平氏政権が打ち立てられる。

上記の時代は、古代からの律令制が変質し、社会が大きく変化した時代でもあった。9世紀には農民の逃亡・浮浪あるいは偽籍の増加で、班田をおこなうことは困難になっていた。院宮王臣家による大土地私有は進み、902年の延喜の荘園整理令もあまり効果をあげなかった。やがて、(ア)課税方法について根本的な

政策転換がなされる。口分田や乗田などの公田は名田として有力農民に耕作が委ねられるようになった。これを（ a ）体制という。有力農民の中で、富を蓄積して大規模化した者は（ b ）といわれる。

10世紀頃になると、国司は徴税請負人として地方支配を強めることになる。現地に赴任した最上席の国司を受領といい、受領の地位は利権化していく。私財を提供する見返りに国司任命などの便宜を受けることを（ c ）というが、中級貴族の中には、（ c ）と重任・遷任を繰り返して諸国の受領を遍歴する者、あるいは国司の権限で大規模な開墾を行って自らの私有地とし、そのまま都に帰らず土着する者もいた。土着した国司の子孫、および（ b ）は在地の開発領主であり、彼らは自衛のために武装して武士団を形成するところとなる。ところで、開発領主は自らの権益を守るため、都の上級貴族に名目上の土地所有者になってもらい、その権威で受領に対抗しようとした。この寄進地系荘園の中には、やがて（ d ）・不入の権という特権を得るものもあった。

1069年、(23) (24) 天皇は延久の荘園整理令で（ e ）を設置して、基準にあわない荘園の整理を進める。その結果、荘園公領制が成立し、これは中世における土地制度の基本となる。また院政期になると、上級貴族や大寺社は（ f ）主として地方一国の支配権を与えられた。（ f ）主は自分の親族らを国司に任命し、その国の公領からあがる収益をも自ら支配するようになった。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (39) (40) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- |         |         |          |         |         |
|---------|---------|----------|---------|---------|
| 11 一条   | 12 二条   | 13 三条    | 14 六条   | 15 宇多   |
| 16 円融   | 17 花山   | 18 後嵯峨   | 19 後三条  | 20 後朱雀  |
| 21 近衛   | 22 醍醐   | 23 橘奈良麻呂 | 24 橘広相  | 25 橘諸兄  |
| 26 伴健岑  | 27 伴善男  | 28 仁明    | 29 藤原清河 | 30 藤原清衡 |
| 31 藤原公任 | 32 藤原伊尹 | 33 藤原伊周  | 34 藤原実頼 | 35 藤原純友 |
| 36 藤原隆家 | 37 藤原忠実 | 38 藤原忠平  | 39 藤原種継 | 40 藤原時平 |
| 41 藤原仲成 | 42 藤原秀衡 | 43 藤原道隆  | 44 藤原基経 | 45 藤原元命 |
| 46 藤原師輔 | 47 藤原行成 | 48 藤原良房  | 49 堀河   | 50 源実朝  |
| 51 源順   | 52 源高明  | 53 源経基   | 54 源雅信  | 55 源満仲  |
| 56 源師房  | 57 源義賢  | 58 源義親   | 59 源義朝  | 60 源義光  |
| 61 源頼家  | 62 源頼信  | 63 村上    | 64 文徳   | 65 冷泉   |

問2 文中の空欄（ a ）～（ f ）に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 文中の下線部（ア）に関して、課税の基準がどのように変化したかを、解答用紙 B の所定の解答欄に20字以内で説明しなさい。

## Ⅱ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

幕末から明治期以降の急速な日本の近代化を説明する際に、江戸時代後期における経済的、文化的な繁栄がその伏線となったという説がでてきている。すなわち、都市の繁栄、商人・文人の全国的な交流、出版・教育の普及、交通網の発達などがさまざまな情報を全国各地に伝え、多様かつ成熟した民衆を基盤とする町人文化が、その後の急速な近代化への道を準備したというのである。

17世紀後半には人や物の移動が全国的に盛んになり、さまざまな性格をもつ都市が発達することになる。  
(ア)特に江戸をはじめとする三都は全国の流通の要となり、世界でも有数の人口をかかえる大都市としてその後の発展の基礎となった。18世紀末になると、それまでに発展しはじめた文化は (41) (42) によって抑制を余儀なくされるが、その後は將軍 (43) (44) の半世紀におよぶ治世のもとで、(イ)下層の民衆をも含む町人文化が開花することになった。

学問の分野では、都市や地方の生活をふまえて、封建制度の維持や改革を提唱する (45) (46) とよばれる思想家の活動が活発化した。(47) (48) は、商売をいやしめる武士の偏見を批判して、藩財政の再建は商品経済の発展によってもたらされるべきであると主張した。(49) (50) は『経世秘策』を著し、西洋諸国との交易や蝦夷地開発による富国策を説いた。国学では (51) (52) が、『古史伝』を書き、儒教・仏教が渡来する以前の神道に戻ることを主張する (53) (54) を説いた。この思想は地方の神職、豪農らに受け入れられるとともに、(ウ)幕末にいたるまで影響力をもった。また、この時代には伊能忠敬などのように、現代人が見ても感嘆するような日本全国の実測図の作成に関わるような人物もでてきた。

洋学の分野では、幕府は西洋暦をとりいれた寛政暦を天文方の (55) (56) に作らせたり、天文方に (57) (58) を設けて、洋書の翻訳に当たらせたりした。(57) (58) は、のちに洋学の教育研究機関である (59) (60) になり、明治以降における大学の前身となった。またオランダ通詞であった (61) (62) は『暦象新書』を著し、ニュートンの万有引力説やコペルニクスの地動説なども紹介した。

また、この時期の学者たちは各地に私塾を開設し、のちに活躍する人材育成にも貢献した。(エ)蘭学者の緒方洪庵は適塾を開き、儒学者の (63) (64) が豊後日田で開いた (65) (66) , 萩の松下村塾などは有名である。またオランダ商館医であったシーボルトは長崎に (67) (68) を開き、(オ)後進の育成に従事した。こうした教育の普及は武士や豪農などにとどまらず、幕府代官や藩の援助による郷学や (69) (70) がつくられ、さらには貧農層の子弟や女子の就学も認める寺子屋などが急増した。

文学の分野では、世相風俗を会話中心に描いた (71) (72) や町人の風俗や恋愛を描いた人情本、勧善懲悪を主題にした (73) (74) などが登場し、戯作者とよばれる武士や町人出身の作家もあらわれた。式亭三馬、十返舎一九、為永春水、曲亭馬琴などがその例である。また江戸には本を買う余裕のない読者のために、見料をとって本を貸す貸本屋が600軒以上もあり、発行部数が1万部をこえる作品もあったという。

美術や芸能の分野では、庶民の旅が一般化したことを背景として葛飾北斎、歌川広重らが人々の暮らしを大胆な構図や色彩で描いた (75) (76) の傑作を発表した。これらの浮世絵はモネやゴッホなどヨー

ロッパの印象派の画家にも大きな影響をあたえた。また、歌舞伎では (77) (78) の『東海道四谷怪談』や河竹默阿弥の作品など、(カ) 町人の日常生活を写実的にとらえた作品が人気をあつめた。また落語、講談、物まねなどを上演する (79) (80) や、相撲、富くじといった現代にも伝わるさまざまな文化活動が盛んにおこなわれることになる。

問1 文中の空欄 (41) (42) ～ (79) (80) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 相對済し令	12 青木昆陽	13 家齊	14 家光	15 市村座
16 井原西鶴	17 懷徳堂	18 海保青陵	19 咸宜園	20 寛政の改革
21 享保の改革	22 教諭所	23 経世家	24 儉約家	25 古義堂
26 国学者	27 滑稽本	28 時習館	29 志筑忠雄	30 芝居小屋
31 洒落本	32 修猷館	33 昌平坂学問所	34 高橋景保	35 高橋至時
36 近松門左衛門	37 綱吉	38 鶴屋南北	39 定免法	40 天保の改革
41 銅版画	42 中村座	43 鳴滝塾	44 日新館	45 能楽堂
46 塙保己一	47 蕃書調所	48 蛮書和解御用	49 平田篤胤	50 広瀬淡窓
51 風景版画	52 風刺版画	53 復古神道	54 本多利明	55 前野良沢
56 水戸学	57 明倫館	58 本居宣長	59 洋学者	60 吉宗
61 寄席	62 読本	63 寄合	64 鹿鳴館	65 和学講談所

問2 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) で述べられている三都のうち、江戸以外の二都市の名前を漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) で述べられている時代の文化のことを何文化と呼ぶか。漢字 2 文字で書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) で述べられている思想は、幕末においてどのような運動を支えるものとして発展したと考えられるか。その運動を漢字 4 文字で書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) について、この塾の出身者で『時事新報』の創刊者となった人物の名前を漢字で書きなさい。
- (5) 下線部 (オ) について、シーボルトから医学、蘭学を学んだのちに、蛮社の獄で永牢の処分を受けた人物の名前を漢字で書きなさい。
- (6) 下線部 (カ) で述べられている歌舞伎の脚本を何というか。漢字 4 文字で書きなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

江戸幕府はアメリカの初代駐日総領事 (81) (82) の要求により、1858年に日米修好通商条約を締結すると、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも同様の条約を結んだ。しかし、これは勅許を得ていないものであったため幕府に対する批判が高まり、大老井伊直弼が桜田門外で暗殺されることとなった。井伊の死後、老中 (83) (84) は(ア)公武合体を進めようとした。他方、長州藩をはじめとして天皇を尊び外敵を退けることを唱える運動が起こるが、1863年の外国船砲撃事件に対してイギリスをはじめとする四国連合艦隊により (85) (86) が砲撃され、また、1862年に起きたイギリス人殺傷事件に対する報復のため、1863年には薩英戦争が起きた。その後、薩摩藩はイギリスに接近するが、幕府に見切りをつけた駐日イギリス公使 (87) (88) の側も薩摩藩に期待を寄せるようになった。これに対し幕府は、駐日フランス公使 (89) (90) に接近し、フランスとの関係を保とうとし、1865年に (91) (92) 製鉄所を設立するなど軍制の近代化を図った。

明治時代に入ると、政府は(イ)遣外使節団を送ったり、外国人の学者や技師らを招くなどし、西洋の政治制度や産業、文化を摂取しようとした。

産業面では、たとえばイギリス人技師の指導のもと鉄道が開通し、新橋・ (93) (94) 間に敷設されたほか、フランスの技術を導入して富岡製糸場を設立し生糸の生産を拡大させた。幕末期にヨーロッパに渡航した渋沢栄一は、その後、国立銀行条例の制定に携わるほか、日本初の本格的な紡績会社である (95) (96) 紡績会社をはじめ多くの企業を設立するなど、日本の金融・経済の近代化に貢献した。また、1877年より内務省（のちの農商務省）主催のもと計5回開催された（ a ）博覧会では、西洋の最新の技術が紹介され、国内の産業の近代化の促進が目指された。

政治制度や法体系の整備も諸国の影響のもとで進められた。自由民権運動が高まるなかで、国会開設に備え、イギリス流の漸進的な議会主義を主張する (97) (98) という政党や、フランス流の急進的な民主主義を主張する (99) (100) という政党が結成された。憲法の起草に際してはドイツの法学者 (101) (102) を政府顧問として日本に招き、ドイツ憲法を模範とした(ウ)大日本帝国憲法が制定された。この憲法は、天皇に官制の制定、官僚の任免、外交権、緊急勅令の制定、陸海軍の指揮権など大きな権限を与えるものであった。とくに陸海軍の指揮権は、内閣からも独立したものであり、（ b ）権とも呼ばれている。一方、民法については、フランスの法学者 (103) (104) を中心に起草され、1890年に公布されたが、これに対し、「民法出でて忠孝亡ぶ」と述べた (105) (106) をはじめ国内の批判が高まり、その後ドイツ民法などを模範とする(エ)新民法が制定されることになった。地方自治制度については、ドイツ人法学者 (107) (108) の助言のもと、市制・町村制、府県制・郡制が制定された。

さて、明治政府は当初より不平等条約改正の交渉を目指していた。1873年に外務卿となった (109) (110) は、樺太・千島交換条約の締結ののち、条約改正交渉を試みたが、イギリス・ドイツの同意が得られなかった。1879年に外務卿（その後外務大臣）となった (111) (112) は欧化政策を打ち出し、日本の近代化ぶりを示そうと試みた。その後外務大臣を務めた (113) (114) が改正案を提示するものの、外国人判事任用問題に際し反対運動が盛り上がり、右翼団体の構成員に襲撃され交渉を中断した。その後外務大臣となった (115) (116) は、ロシアの皇太子が負傷するという大津事件により引責辞職した。1893年に

(117) (118) が外務大臣となると、その翌年イギリスとの間に ( c ) が調印され、領事裁判権の撤廃に成功した。

問1 文中の空欄 (81) (82) ～ (117) (118) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- |              |           |           |          |
|--------------|-----------|-----------|----------|
| 11 アーネスト＝サトウ | 12 青木周蔵   | 13 阿部正弘   | 14 安藤信正  |
| 15 伊藤博文      | 16 伊東巳代治  | 17 井上馨    | 18 井上毅   |
| 19 ヴェルニー     | 20 梅謙次郎   | 21 榎本武揚   | 22 大隈重信  |
| 23 大阪        | 24 オールコック | 25 鹿児島    | 26 鐘淵    |
| 27 金子堅太郎     | 28 川崎     | 29 グナイスト  | 30 グラバー  |
| 31 神戸        | 32 児島惟謙   | 33 五代友厚   | 34 小村寿太郎 |
| 35 西園寺公望     | 36 芝浦     | 37 下田     | 38 下関    |
| 39 自由党       | 40 シュタイン  | 41 進歩党    | 42 副島種臣  |
| 43 寺島宗則      | 44 東京     | 45 長崎     | 46 パークス  |
| 47 林薫        | 48 ハリス    | 49 ヒュースケン | 50 ブスケ   |
| 51 フルベッキ     | 52 ボアソナード | 53 堀田正睦   | 54 穂積八束  |
| 55 松方正義      | 56 松平慶永   | 57 三宅雪嶺   | 58 陸奥宗光  |
| 59 モッセ       | 60 森有礼    | 61 モレル    | 62 山田顕義  |
| 63 横須賀       | 64 横浜     | 65 立憲改進黨  | 66 立憲政友会 |
| 67 立憲帝政党     | 68 ロエスレル  | 69 ロッシュ   |          |

問2 文中の空欄 ( a ) ～ ( c ) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、25字以内で説明しなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、1871年の遣外使節団の大使となった人物の氏名を漢字で書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) について、これは国民の代表である議会ではなく、天皇によって制定されたものであるが、こうした性格をもった憲法を何というか、漢字で書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) について、1898年に施行された民法により家制度が規定され、家長に対して家族の構成員に対する強大な権限が認められた。この権利のことを何というか、漢字で書きなさい。